

## SDG s と食品化学

### -開催趣旨-

従来型の科学技術開発や行動様式ではどうにもならない状況であることを世界全体が感じ、その打開のための行動指針として、国連が 169 のターゲットから構成された 17 のゴールを持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) として掲げ、2030 年までの達成を目指して、企業、自治体、アカデミアなどがさまざまな取り組みを始めています。食は、私たちの基本的営みであると同時に、多くの問題を抱えています。SDGs の 17 のゴールにおいても、全てが食に関連するといっても過言ではなく、SDGs 達成のためには、食に関する「イノベーション」「レギュレーション」「リスクコミュニケーション」が重要な役割を果たすと考えられます。今回のシンポジウムは「SDGs と食品化学」と題して、食品化学領域におけるイノベーション、レギュレーション、リスクコミュニケーションに関する話題を取り上げ、先端の取り組みとその課題を共有すると同時に、今後の課題の解決と研究の方向性を探る場になればと考え、企画しました。最後には、消費者庁の先生からリスクコミュニケーションの一環として、食品表示の行政動向についてご講演頂きます。

### -プログラム(予定)-

13:30~13:35 世話人挨拶 開会挨拶 矢野竹男 (三重大学大学院地域イノベーション研究科教授)

座長：矢野竹男 (三重大学大学院地域イノベーション研究科教授)

13:35-14:05 講演①「食品と SDGs：グラスゴー会議(COP26)の動向」

三重大学特命副学長 (SDGs・環境担当) 朴恵淑 先生

14:05-14:35 講演②「食品添加物：SDGs とどのように関われるか」

日本食品添加物協会 専務理事 脊黒勝也 先生

14:35-15:05 講演③「青果物の特性から近未来における包装の在り方を考える」

農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員 北澤裕明 先生

(15:05-15:25 休憩)

座長：穂山浩 (星薬科大学薬学部教授)

15:25-15:55 講演④「水産生物へのゲノム編集技術の実用化に向けて」

京都大学農学研究科応用生物科学専攻 教授 木下政人 先生

15:55-16:25 講演⑤「農作物へのゲノム編集技術の現状と今後の応用展開」

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻 教授 村中俊哉 先生

16:25-16:55 講演⑥「食品添加物の不使用表示に関するガイドライン検討会について」

消費者庁 食品表示企画課 課長補佐 宇野真麻 先生

16:55-17:00 閉会挨拶 小関良宏 (日本食品化学学会理事長、東京農工大学工学部教授)

- 日 時： 2021 年 12 月 17 日(金) 13:30-17:00 (予定)
- 開催形式： Zoom ウェビナー (配信 URL は、開催日までにメールいたします。)
- 参加費： 無料
- 定 員： 200 名<事前申し込みのみ>
- 申 込 み： 本会 HP の「登録・お問合せ」画面よりお申込ください。
- 申込期限： 11 月 26 日、ただし定員に達し次第、受付終了と致します。